

平成29年度平塚市食育推進会議次第

日 時 平成29年8月9日(水)
午後2時から午後3時30分まで
場 所 平塚市保健センター
3階 会議室1・2

1 開会

(1) 委嘱状交付

(2) あいさつ

(3) 委員自己紹介

(4) 会長・副会長の選出

2 議題

(1) 食育推進計画の事業に関する調書(平成28年度実績・平成29年度取組)
について(資料1・2)

(2) 平成29年度の予定について(資料3)

3 その他

4 閉会

<添付資料>

- ・平成29年度平塚市食育推進会議委員名簿
- ・平塚市食育推進会議条例
- ・資料1 平成28年度平塚市食育推進計画の事業に関する調書・平成29年度取組概要
- ・資料2 平塚市立旭陵中学校「早寝早起き朝ごはん」
- ・資料3 平成29年度平塚市食育推進計画 予定表

平成29年度平塚市食育推進会議委員名簿

平成29年8月9日現在

団体名	役職等	氏名(敬称略)
学校法人 鎌倉女子大学	家政学部 管理栄養学科 教授	森政 淳子
湘南農業協同組合	組織部 組織指導グループ グループリーダー	河口 清代美
平塚魚商業協同組合	食品衛生指導員	松本 明
村井弦斎の会	事務局	小林 美和子
神奈川県栄養士会 (第6県民活動事業部会)	地域活動栄養士菜の花会 会長	高橋 暁子
平塚市食生活改善推進団体	会長	江原 洋美
平塚市私立幼稚園協会	園長(黒部丘幼稚園)	三浦 深雪
平塚民間保育園連盟	園長(中原保育園)	中久喜 直保美
平塚市立小学校長会	校長(神田小学校)	土方 美佳
平塚市立中学校長会	校長(神田中学校)	久松 美代子
神奈川県立平塚農業高等学校	副校長	加来 功
一般社団法人 平塚市医師会	理事	下島 るみ
一般社団法人 平塚歯科医師会	理事	松本 文夫
神奈川県平塚保健福祉事務所	主査	市川 佳世
市民委員		山本 真寿美
市民委員		高谷 麻子

任期:平成31年5月31日まで

平塚市食育推進会議条例

(設置)

第1条 食育基本法(平成17年法律第63号。以下「法」という。)第33条第1項の規定に基づき、平塚市食育推進会議(以下「推進会議」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 推進会議は、平塚市食育推進計画(法第18条第1項の規定により本市が作成する計画をいう。)の作成等について審議し、及びその実施を推進する。

(組織)

第3条 推進会議は、委員18人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 食に関する分野の団体の代表者
- (3) 保育・教育分野の団体の代表者
- (4) 保健分野の団体の代表者
- (5) 公募に応じた市民

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第6条 推進会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 推進会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 推進会議は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決

するところによる。

(部会)

第8条 推進会議は、特定の事項及び専門的事項について調査審議させるため、部会を置くことができる。

(意見等の聴取)

第9条 会長は、推進会議の運営上必要があると認めるときは、推進会議に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、会長が推進会議に諮って定める。

附 則

この条例は、平成25年4月1日から施行する。

平成28年度平塚市食育推進計画の事業に関する調書・平成29年度取組概要

1 平成29年度取組の展開

	継続	拡充・充実	縮小	休止または廃止	統合	その他
件数	54	1	1	1	0	1

2 展開項目ごとの概要

拡充・充実予定の事業

課名	計画事業名	平成29年度取組概要
健康課	乳幼児健診・育児相談	平成29年度は平塚市子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラルームはぐくみ」で妊婦や乳幼児の個別相談を実施していく予定。

縮小の事業

課名	計画事業名	平成29年度取組概要
健康課	健康相談	特定健診結果説明会については、次年度は共催している保険年金課が事業を中止としたため、当課も中止とする。

休止または廃止

課名	計画事業名	平成29年度取組概要
市民情報・相談課	親子消費者教室	次年度以降は「親子消費者教室」は継続するが、内容を食の安全性等で継続することが困難なため。

その他

課名	計画事業名	平成29年度取組概要
社会教育課	村井弦斎まつり	「村井弦斎まつり」は20回の節目も近いことから、現在実行委員会において、まつりの趣旨や今後の方向性について検討を行っている。食育の啓発を中心にしたいという意見もあるが、当課だけでは対応が難しいこともあり、今後のあり方について関係団体と協議していくとともに、関係各課に協力を仰いでいきたい。

家庭における食育の推進の取組み

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
こども家庭課	相談体制の充実	子ども総合相談	地域の公共施設である「子どもの家」に出向き、乳幼児の子育てニーズを総合的に受け止め、親子とのふれあい遊びを行ったり、保育士が子育ての悩み相談に応じる。	・実施回数32回 ・参加親子述べ人数441人 ・相談件数85件(うち食育に関するもの14件)	・育児における食生活で悩みや相談に対応し、情報提供を行う事で、食事に対する不安の解消と安心を提供する。	継続	相談内容に応じて保健センターの栄養相談につないでいく。	
保育課		子育て支援事業	子育てサロンで育児講座の実施や相談、電話による相談を行う。	子育てサロンや電話による食事・栄養に関する相談件数 ・子育て支援センター 611件 ・つどいの広場もこもこ 99件 ・つどいの広場きりんのおうち 113件 ・つどいの広場どれみ 63件	子どもの食事や栄養に関する相談対応や情報提供を行うことで、食事に対する不安や悩みの解消を図る。	継続		
健康課		乳幼児健診・育児相談	幼児健診や育児相談の場で相談、乳幼児健診後の電話相談や、要望に応じて訪問や来所、電話、インターネット相談を行う。	乳幼児健診後の電話による相談 54件 7か月児相談 468件 幼児健診での相談 752件 2歳児歯科健診での相談 279件 来所による相談 506件 電話相談 (妊産婦 0件、乳幼児 236件) 訪問による相談 (妊産婦 0件、乳幼児 25件) インターネット離乳食相談 31件	食環境が大きく変化する妊娠期、乳幼児期の食に対する不安を軽減し、健康な身体づくりのための食の基盤を築くことができる。	拡充・充実 平成29年度は平塚市子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラールームはくくみ」で妊婦や乳幼児の個別相談を実施していく予定。		平成28年度は新規に7か月児相談を実施し、参加者の58%、参加者の44%に栄養相談を実施した。
		就労者への情報提供	企業へチラシを配布し、健康講話の実施や健康相談を受け付ける。	管内地域食生活対策推進協議会を通じて、本市の事業についてPRを行った。	青・壮年期の食生活を見直す機会を作ることで、食を通じた健康づくりを意識づけることができる。	<継続>		
		食育関連パンフレットの配付	婚姻届を提出する窓口に、新婚家庭向けの情報提供パンフレットを設置する。また、母子手帳を交付する際に、父親になる方向けに「父子育児手帳」を配付する。「父子育児手帳」には、妊娠中の妊婦の食生活についてや育児に必要な離乳食、幼児食についても掲載している。	父子育児手帳配付数:1,842冊	生活が大きく変化するライフイベントにおいて、食生活を見直す機会を提供することができる。	継続 県が作成した、かながわ版父子手帳(パパノミカタ)と併せて平塚版父子手帳を配付		
健康課	学習の場の充実	母親父親教室	母親父親教室では、助産師・保健師・栄養士・歯科衛生士などの専門職が、安心安全なお産を迎えるための教室を行う。また、栄養士が妊娠中から産後に必要な食生活について、講話や実習など、妊婦やその家族を対象に体験型の教室を行う。	【母親父親教室】 開催回数 6回 参加者数 妊婦 88人 夫 51人 その他 4人 内 容 講話と妊娠期の食事1食分の試食	食生活が大きく変化する時期に、食に関する情報提供、体験を行うことで、時期に応じた食生活について理解することができる。	継続 今年度から母親父親教室とプレママバクッキング教室を統合し、母親父親教室の中で妊娠期の食事を体験(1食分の試食)してもらい内容に変更した。母親父親教室で試食することで、前年度より多くの参加者に体験してもらうことができた。また、参加者のアンケートからも食事の体験が参考になったと回答された割合が98%であり、効果的だと判断したため。		

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
健康課	学習の場の充実	離乳食教室	各月齢に合わせ、離乳食の開始から卒乳までの内容を組み込んだ教室を行う。	離乳食教室5,6か月児 376人(母327人、父30人、祖父母18人、その他1人) 離乳食教室7,8か月児 326人(母304人、父13人、祖父母9人) 離乳食教室9か月～1歳6か月児 266人(母244人、父13人、祖父母9人) 離乳食教室5か月～1歳6か月児 146人(母87人、父56人、祖父母3人)	離乳食期に保護者へ食生活の基礎について情報提供することで、乳幼児期の成長発達のための適切な食生活について普及啓発することができる。	継続 試食等含めた普及啓発ができるため、継続して実施する。		平成28年度から7,8か月児の教室の開催回数を18回から12回に減らしたが、参加者数は36組増加した。平成28年度から実施した7か月児相談で個別相談後教室予約をされる保護者が増えたことも影響していると考えられる。
		幼児教育	2歳児歯科健診の会場で、歯科衛生士と栄養士が幼児と保護者に対して嘔むことの大切さや生活リズムについての集団指導を行う。	26回実施した歯科健診において、各5～6回の集団指導を行なった。(子どもと保護者向けに早ね早おき朝ごはんに関する食育)また、平成28年度から保護者向けに野菜摂取勧奨の内容を加えた。	「嘔む」ことの大切さを専門職から聞くことができる。2歳児とその保護者に対して生活リズムを整えることや朝ごはんを食べる必要性について伝えることができる。	継続 保護者と子どもに対して普及啓発ができるため、継続して実施する。		
		思春期対策事業	思春期に必要な食生活や、将来、健康的な成人期を迎えるにあたっての教室を保健師、助産師、栄養士で行う。	公立中学校 1校(230人)	思春期に自分の適正体重や食事内容を知ることで、健康的な成人期を迎えるための食生活について理解することができる。	継続 ライフスタイルが大きく変わる時期に正しい食生活について見直す場となるため。		市内中学校に思春期教室の案内を送付したことにより4校から依頼があり、内1校から食生活についての講座依頼があった。
		祖父母のための食育教室	保育所等で開催される敬老週間事業などへ出向き、祖父母を対象に食育教室を行う。	実施回数及び参加者数 教室開催回数 2回 参加者数 78人 資料配布回数 5回 配布数 563部	乳幼児期と高齢期における食育の普及を行うことができる。	<継続> 市内の保育園の敬老の日関連したイベント開催時に時間をいただき啓発しているため。		
	学習の場の充実	子どもの生活習慣病予防対策事業	小児期から規則正しい生活習慣を身につけ、生活習慣病を予防するために、5歳児肥満度調査や5歳児生活実態調査、幼児や保護者を対象とした巡回教室、予防相談などを行う。	5歳児肥満度調査:5月実施 巡回教室:実施回数45回(43園)、 参加者数2,310人(園児2,016人、保護者294人) 子どもの生活習慣病予防相談:平成28年7月24日(日) 10組参加、後日対応1組	幼児期における適切な食生活や生活リズムについて、幼児、保護者、関係機関に普及啓発することができる。	<継続> 早い時期から適切な食生活について啓発することが大切なため。	対象児への参加動向について検討	

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
健康課	情報提供の充実	地域依頼食育教室の開催	地域で実施されている子育て支援事業にアウトリーチ、食育講話や個別の相談を行う。	実施回数及び参加者数 家庭教育学級 3公民館 参加者数 57人 子育て支援 11地区 参加者数 329人 子育てサークル 1地区 参加者数 39人 保育園 2園 参加者数 65人 他課共催・依頼教育関係 3回 参加者数 58人	地域で食に関する情報提供や技術支援を実施することで、生涯に応じたライフステージへの食育を行うことができる。	継続 地域で活動されている団体などの場へアウトリーチすることで、幅広い対象にアプローチすることができるため。		
	体験の場の充実	食育事業	食生活改善推進団体に委託し、地域住民が健康的な食生活の知識を身につけられるよう、講話や調理実習を取り入れた事業を行う。	実施日、地区、参加者数 平成28年11月23日(水) 大原公民館 10人 平成28年11月26日(土) 松原公民館 12人 平成28年12月 3日(土) 金田公民館 8人 平成29年 1月14日(土) 神田公民館 8人 平成29年 1月21日(土) 花水公民館 15人 平成29年 1月28日(土) 四之宮公民館 13人 お節料理 節分料理	行事食をテーマに、伝統文化についても家庭で考えるきっかけとなる。	継続 公民館と連携して普及啓発を進める。	地区公民館と連携し、参加勧奨する。	
		親子で朝ごはんクッキング教室	未就学児とその保護者を対象に、バランスの良い朝食を簡単に調理し、試食します。また、食育クイズや生活リズムについての講話を行う。	5回実施 実施日:平成28年7月29、30、31日、8月5、6日 参加者数:100人(子ども 49人、保護者 51人)	子どもが調理に携わることで、食べ物や食べることに興味を持つことができる。保護者が子どもと一緒に家庭で食育を実施できる。	継続 保護者と子どもの双方に適切な食生活について普及啓発できる機会のため、継続して実施する。	家庭での実践が可能な朝ごはんのメニュー等を提案する。	

学校・保育所等における食育の推進の取組み

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
教育指導課	食に関する指導の充実	食に関する指導	各小中学校において、食育全体計画を作成し、食教育推進担当教員や栄養教諭及び学校栄養士等が連携して、食に関する指導(食べ物の働き、マナー、献立作成等)を行う。また、米作りや野菜の栽培・収穫体験をし、食材への興味・関心を育てる。	小中学校の食教育推進担当者、栄養教諭及び学校栄養職員が一堂に会しての、食教育推進担当者会を開催した。本担当者会において、各校の食に関する指導の年間指導計画を持ち寄り情報交換等を行った。また、平成27年度の「食に関する指導」実施状況調査の結果を振り返るとともに、平成27年度の栄養教諭の取組の紹介をした。さらに、栄養教諭を中核としたネットワークによる食育の推進について、グループ協議を行った。	各小中学校に食教育推進担当者置き、43校全校が食育全体計画を作成し、食に関する指導を行える。	<継続> 今後も、食教育推進担当教員や栄養教諭及び学校栄養士等が連携して、食に関する指導(食べ物の働き、マナー、献立作成等)を行うとともに、米作りや野菜の栽培・収穫体験をし、食材への興味・関心を育てる必要があるため。	小中学校の食教育推進担当者、栄養教諭及び学校栄養職員が一堂に会しての、食教育推進担当者会の内容を更に充実したものとします。	
			幼稚園において、お弁当の時間に食べることを楽しさを感じられるような指導を行います。また、野菜の栽培・収穫体験をし、食材への興味・関心を育てます。	お弁当の時間を中心に、しっかり噛んでゆっくり味わって食べる大切さや、人と一緒に食べる楽しさ等を感じられるよう、食に関する指導を行った。また、園庭を利用して野菜等を植えたり、愛着を持って育てたりしながら、食材への興味関心を高めた。また、みかん狩り等、自然の恵みを感じられる場を保育に取り入れた。	野菜等を育てることにより、栽培や収穫の喜びを感じ、食べる楽しみにつながる。	<継続> 今後も、栽培・収穫の喜びや、食べることの喜びや楽しさ等を感じるとともに、食べ物への興味関心を高めるため。		
学校給食課	食に関する指導の充実	食に関する指導	各小中学校において、食育全体計画を作成し、食教育推進担当教員や栄養教諭及び学校栄養士等が連携して、食に関する指導(食べ物の働き、マナー、献立作成等)を行う。また、米作りや野菜の栽培・収穫体験をし、食材への興味・関心を育てる。	全校において、各学校の食に関する課題にあったテーマを設定し、給食時間、家庭科、学校保健委員会、その他で計1981回指導を実施。 小学校 1677回 中学校 304回	学校栄養職員・学校栄養教諭を通して、児童に望ましい食事のあり方等の食に関する指導を行い、時間、形態は学校の実態、裁量に合わせ、効果的な食教育のあり方を探りながら展開できる。	<継続>		
保育課			保育所において、保育士や栄養士が園児に対して野菜の栽培や調理体験、バイキング給食などを行う。	園の食事や野菜の栽培をつうじて、育てる・触れる・収穫する・調理する等の経験をし、皆で食べる楽しさを味わう。 給食の食材を使用して、クッキングをしたり、バイキング給食を計画し、実施している。 クッキング保育 実施回数 延べ305回 延べ参加人数 9,969名 バイキング給食 全園で実施 (頻度・実施年齢は園による) 主任保育士による食育 延べ105回 延べ参加人数 3,853名 栄養士による決まった時間での食育は行わなかったが、巡回時に教室を回り、声掛けをしたり、クッキングに参加した。	食育年間計画を活用し、年齢にあった体験等を実施することで、食に関する興味関心を持つ心を育てる。 子ども達が食材に触れることにより、苦手なものも進んで食べられるようになり、食材に関する話題が増え、食に関する興味関心を導く。	<継続>	平成29年4月から港幼稚園と須賀保育園を統合し「港こども園」が開所。1号認定児の保育時間にも配慮した中でクッキングや栄養講話を行う予定。	
学校給食課	給食を活用した取組みの推進	学校給食地場産野菜等使用推進事業	学校給食における地場産農産物等の積極的な使用に努め、「地産地消」の推進を図る。また、給食の予定献立表や給食時間の放送、平塚産野菜PRキャラクターを用いた給食を実施し、「地産地消」について児童へ啓発を行う。	年間使用品目49品目中平塚産野菜24品目 品目ベース使用割合49.0% 重量ベースにおいても、昨年度(20.5%)に比べ使用率が上がった(21.4%) 野菜以外の地場産品については、アジ、サバ、カマス、カオリ糰、小松菜トマトパン、やまゆりポーク、豚もも肉を使用した。	給食を生きた教材として、地産地消の推進を行うことができる。また、教諭との連携により、学校給食における地場産品を題材にした授業を行うことで、児童の地場産農産物や農畜水産業への理解の増進につなげることができる。	<継続>		

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
学校給食課	給食を活用した取組みの推進	ふれあい給食	小学校に農業や漁業、畜産業の生産者及び関係者を招いて、小学生と一緒に給食を食べながら生産者の話を聞き、地域産業の理解や地産地消の推進につなげる。	市内28校中18校65クラスに生産者等関係者を招いて実施 【食材テーマ】 学校給食で使用している野菜全般……………17校 魚……………5校 豚肉……………1校 加工品……………1校 【関係団体等】 JA湘南、JA全農、平塚市漁業協同組合、やまゆりポーク生産者協議会、(株)フリーデンなど	ふれあい給食を通して、地域産業の理解や地産地消の推進につなげることができる。	<継続>		
保育課		給食試食会	保育所に園児の保護者を招き、園児と一緒に給食を試食する。また、栄養士の食育講話も行う。	周知方法…園だよりや園内掲示板で呼びかける。給食の準備も必要となる為、申込書によりあらかじめ参加人数の把握をする。 実施回数及び参加人数(公立9園) 試食会の実施…7園 延べ94名	食事の場がコミュニケーションの重要な場であることを理解し、年齢にあった味・量・盛り付け方等を知る。 食事に対する不安や悩みの解消を図り、食の大切さに対する意識を向上させる。	<継続>		
教育総務課	相談・情報提供の充実	児童健康教室(子どもの生活習慣病予防対策事業)	肥満度20パーセント以上の小学校4年生とその保護者を対象に、医師や栄養士、運動指導士が健康相談や運動指導を行う健康教室を実施する。	健康教室(平成28年11月20日(日)実施) 参加案内配布人数 138人 参加申込者 24人 参加者 18人 ・健康教室は、身体計測(血圧測定含む)・医師面談・運動教室・栄養相談を実施 ・医師3名、運動指導士1名、栄養士3名が従事 ・健康教室欠席届出者と当日欠席者の39人に対し、栄養士からの食物摂取アドバイスの冊子、医師作成の生活習慣病対策資料を配布	健康や食事について専門的な指導・助言を受けることができ、日々の食事摂取の大切さへの理解が深まる。	<継続> 参加者からは、子ども自身が自分の体や生活習慣について考える良いきっかけとなった等の意見があがっており、生活習慣病の予防に効果があると考えられるため。	参加案内を配布した児童のうち半数以上は返信がないため、養護教諭や担任からの積極的な声掛けが必要である。	
保育課		開放保育	子育て家庭に対して、開放保育の場で献立表や食育だよりを配布し、食に関する情報提供や相談、簡単クッキング等を行う。	周知方法…園内掲示板、情報誌の発行、市ウェブでの広報 実施回数 全園 毎週1回 参加人数 2~15名程度/回 クッキングの実施…開放保育参加者を対象として実施 実施園 4園 参加者 35組 73名	子どもの食事や栄養に関する相談対応や情報提供を行うことで、食事に対する不安や悩みの解消を図る。 献立表やサンプルケースの展示・簡単クッキング等により、食に関する興味関心を導く。	<継続>		

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
健康課	生活習慣病の予防・改善のための食育の推進	運動教室	生活習慣病予防において大切な運動実践を通して運動の知識や技術の提供とともに、適正な食生活に向けた見直しを行う。	腹囲マイナス教室 周知方法: 広報ひらつか、市ウェブ、チラシ等 実施回数: 8回(2回×4クール) 参加者数: 140人 実施内容: 6日間コースの教室のうち、1日目に講話と体験、4日目に講話と食生活の確認	生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育が実施できる。	<継続> 生活習慣病予防の適切な食生活について普及啓発ができる。		
		生活習慣病予防料理教室	地域で活躍している食生活改善推進団体に委託して、地区公民館で生活習慣病予防料理教室を開催する。	周知方法: 公民館だより 委託先: 平塚市食生活改善推進団体 実施内容: 地区会員による調理実習、健康課栄養士による講話 参加者数: 8地区137人	人とのふれあいを通じた食育、生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育が実施できる。	<継続> 住民にとって身近な食生活改善推進員による普及啓発ができるため。		
		健康相談	生活習慣病の予防・改善のため、生活環境に即した食事についてや介護予防につながる食事についての個別相談を実施します。	ヘルスアップ相談を23回実施 延べ相談者数223人 相談者の希望日時での健康相談を8回実施 延べ相談者数 9人 上記以外での来所相談(所内指導日計表より) 延べ相談者数 3人 生活習慣病を主訴とした電話相談(所内指導日計表より) 延べ相談者数 34人 特定健診結果説明会 5回実施 延べ相談者数 83人 家庭訪問 1回実施 延べ相談者数 1人	生涯におけるライフステージに応じた食育、生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育を実施することができる。	<縮小> 特定健診結果説明会については、次年度は共催している保険年金課が事業を中止としたため、当課も中止となった。		
高齢福祉課		健康相談	生活習慣病の予防・改善のため、生活環境に即した食事についてや介護予防につながる食事についての個別相談を実施する。	内容: 高齢者の食生活に関する相談 <訪問> 件数: 1件 延人数: 1人 <来所> 件数: 3件 延人数: 3人 <電話> 件数: 5件 延人数: 6人 <日常生活支援サービス事業による訪問> 件数: 0件	個々の状況に合った食生活指導や食事療法へのアドバイスをを行い、効果的に食生活改善を行う。	継続 個別の相談窓口として継続	今年度から開始した日常生活支援サービス事業による訪問の依頼は0件であった。サービスを受けるための条件など検討し、周知していく。	
健康課		歯科健康教室	生活習慣病と歯科疾患との関係についての知識や、予防方法についての教室を開催する。	歯科医からきく 健康の秘訣講座 開催回数: 1回 参加者数: 19人 しって得する健口生活 お口の体操 開催回数: 2回 参加者数24人 口臭予防 開催回数: 2回 参加者数54人 糖尿病予防教室や女性のための健康教室などで歯周病予防について普及啓発 開催回数: 8回 参加者数: 133人	生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育を実施することができる。	<継続>	知って得する健口生活の教室は一部内容を変更し、教室を開催する。	
	食に関する普及・啓発	食育ガイドや食事バランスガイドなどの活用	健康づくりのための食生活の実現に向けた教育の際、食育ガイドや食事バランスガイドなど、栄養バランスなどに配慮した食生活を送るための指針を活用する。	[活用状況] 食事バランスガイド: 母親父親教室、依頼教育など 食育ガイド: 腹囲マイナス教室、メタボ予防教室など	生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育を実施することができる。	<継続>		

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
市民情報・相談課		消費生活展	消費者団体の協力のもと、市民が食・環境・日常生活における幅広い消費生活に関心を持って行動してもらえるような情報提供を中心に開催する。	「広報ひらつか」及び「市ウェブ」「地方情報紙」掲載により周知。 公民館等市施設及び行政、消費者団体へチラシ配布。 日時：9月27日(日)平塚市消費生活センター 「あなたがつくる！これからの暮らし」をテーマに消費者団体、行政が展示、啓発を実施した。参加消費者団体7(平塚市食生活改善推進団体、平塚友の会、エコソカル・コミュニティあおいほし、せつけんビレッジ、湘南生活クラブ生協コンスひらつか、生活協同組合ユー・ユープ平塚市エリア会、平塚市地域婦人団体連会)、参加行政団体3(商業観光課、消防本部予防課、市民情報・相談課)、参加者430人、全展示見学スタンプラリー達成者249人。 ・消費者団体との打ち合わせを経てテーマを決め、「消費生活展」への参加・協力を得られた。	健康づくりや食文化継承のための活動をしている団体の参加もあり、食育の情報提供・普及啓発活動の周知を行うことができる。また、「市民活動センターまつり」、「弦斎まつり」と同日開催することにより、そのエリアにたくさんの人出があるため、より多くの来場者に、情報提供できる。	<継続> 市民に対して、食・環境・日常生活等幅広い消費生活に関心を持ってもらう為、様々な情報を持つ消費者団体等との協力を得て長年行っている。消費生活センター、消費者団体活動のPR、団体間の交流の場としても意義がある。	消費生活に興味、関心のない市民への啓発が課題であるが、次期も市民活動センターまつり、弦斎まつり等と同日開催し、多くの来場者を確保し、少しでも多くの関心を持ってもらえるように努める。	
健康課	食に関する普及・啓発	健康づくり情報の発信事業	食を通じた健康増進に関する知識をFM放送(FMナバサ)やほっとメールひらつか(ひらつか子育て応援メール)等で発信する。	FM放送:2回 ホットメールひらつか:2回	生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育を実施することができる。	<継続>	今年度途中から、ほっとメールひらつかの配信方法が変更になり、ケーブルテレビのL字放送でも情報を配信できるようになったため、次年度もより多くの方に情報を提供していく。	
健康課		野菜プロジェクト	6月の食育月間に幼児健診を受診される保護者を対象として、「野菜を1日350g以上食べる」ためのPRや体験事業を実施する。また、ポスター等の掲示により普及啓発を行う。なお、2歳児歯科健診の集団指導時に保護者に対してフードモデルやポスターを用いて啓発を行い、子育て講座などでも保護者に対し野菜摂取量の確認と、講話を行った。	実施日:6月1日、3日、8日、10日、15日、17日 参加人数:延229人 実施内容:フードモデルを用いて、1日に必要な野菜摂取量を視覚に訴え、必要量を確認する 通年で「野菜1日350g食べましょう」のポスター掲示 2歳児歯科健診の集団指導で、保護者に対し1日に必要な野菜の量を周知 23回実施 917人(保護者人数) 子育て講座 9回実施 130人(保護者・スタッフ人数)	生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育を実施することができる。	<継続>		今年度は、青年期に当る乳幼児を持つ保護者に対し、健診や講座の中で野菜摂取を促すための講話をとり入れた。
中央公民館	地域における食育に関する情報提供の充実	公民館事業での食育の推進	公民館事業において、料理教室などを通じた食育の機会を提供する。	地場産の食材を活用し地産地消を取り入れた事業や、食の安全性や食生活の見直し等を取り入れた事業を実施した。 卵を取り上げた講座では、卵料理だけでなく、卵の学習、殻を使った工作、卵に関連する本の読み聞かせ等、さまざまな要素を取り入れ、食に関心を持たせることができた。 子どもたちが自ら畑で野菜を栽培し、収穫した野菜で料理を作ることで、農作物や食を大切にすることを育むことができた。 92事業・参加者 延 2,244人	地場産の食材を取り入れた料理教室を実施することで、農作物や生産者へ感謝の心を育むことができる。 さまざまな要素を取り入れることで、食への関心を深めることができる。	<継続> 各公民館が地域の特性や地域人材を生かした事業展開をしており、今後も継続して取り組んでいく。	多くの方が参加できるように、開催日や参加対象者の設定に配慮し、多様な学習機会を提供していく。	

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
高齢福祉課	地域における食育に関する情報提供の充実	地域依頼教育	公民館や自治会、地区社会福祉協議会などと協働し、地域に出向いて食に関する健康講話や健康相談を行う。	<栄養講話> 開催回数:18回 参加者数:延385名 内容:高齢者を対象とした栄養講話 <調理実習> 開催回数:6回 参加者数:延104名 内容:高齢者を対象とした栄養講話と調理実習による栄養教室	栄養講話や調理実習を通して地域の高齢者の食生活改善や健康のための知識を広める。	<継続>	依頼者や参加者の知りたいことなどニーズにあったテーマに沿った教室の開催。	
健康課			公民館や自治会、地区社会福祉協議会などと協働し、地域に出向いて食に関する健康講話や健康相談を行う。	実施回数:12回 参加者数:462人	人とのふれあいを通じた食育、生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育が実施できる。	<継続> 今年度は事業者からの依頼もあり、全体的に実施人数は多くなった。今後も依頼を受けた中で事業を継続していくため。		

食育推進運動の展開

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
健康課	マンパワーの育成や活動支援への取組み	食生活改善推進員の養成	地域での食生活改善活動に必要な知識と実践のための技術を習得するための講座を開催する。	平塚市食生活改善推進員養成講座 12回実施、参加者数延170人 育成事業:役員会での助言指導 11回実施、参加者数延147人	人とのふれあいを通じた食育が実施できる。	<継続> 活動が円滑に実施できるよう、支援が必要なため。		
		食育に関するボランティアへの育成と活動への支援	食生活改善推進員が各地域の特色を活かした食生活改善活動を実施できるよう、活動支援や技術提供などを行う。 班長会等において、会員の育成や活動していくにあたっての支援を実施する。	総会、班長会、離乳食教室リハーサルにおける助言・指導 年7回実施 延266人	人とのふれあいを通じた食育が実施できる。	<継続> 新しい情報の提供や支援等が必要なため。		
	食育推進に関する情報提供の推進	食育活動の情報の共有化	地域で食育活動を実施している団体(食育推進会議委員)の活動状況を把握し、行政と市民の協働による食育の推進を図る。	食育推進会議開催 開催回数:1回	生涯におけるライフステージに応じた食育、人とのふれあいを通じた食育が実施できる。	<継続> 今年度は食育推進計画進行管理の中で大きな変更が見られないことから会議の開催を1回にした。次年度にぬいても同様に考えているため。		

生産者と消費者の交流の促進及び環境との調和のとれた
農水産業の活性化

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
農水産課	地産地消の推進	市内直売所	平塚市公式ホームページで市内の野菜、果樹、花きを販売する直売所を紹介する。	引き続き、市ウェブで生産者や直売所(市内の野菜・果樹・花きの生産者やJA湘南各支所直売所を紹介するページ)を紹介した。	市内生産者の情報を広く発信することにより、地産地消や食育の推進を図る	継続	適宜、市ウェブの内容を確認して、最新の情報を掲出していく。	
		地場産品PRイベント	「美味花市(うまかいち)」や「JA湘南でてこいまつり」、「地どれ魚直売会」などのイベントを通じ、地場産農水産物のPRを行う。	若手農業者による地場産農産物即売会「美味花市(うまかいち)」 実施日:11月27日(「第6回大門市」にブースを出展) JA湘南でてこいまつり 実施日:11月12日(土)～13日(日) 平塚市総合公園 地場産水産物の直売会「地どれ魚直売会」 実施日:5月27日、6月24日、9月2日・30日、11月4日、12月2日、16日、2月3日、3月3日・24日 計10回	各イベントで、平塚産農水産物の販売やPRを行い、地産地消の推進を図る。	継続 実行委員(市内農家)の営農状況の変化により活動が難しくなったため、美味花市(うまかいち)は平成29年度は開催しない。	新規の参加者を集めるため、幅広く周知を行う。	
		ふれあい給食事業	小学校に農業や漁業、畜産業の生産者及び関係者を招いて、小学生と一緒に給食を食べながら生産者の話を聞き、地域産業の理解や地産地消の推進につなげる。	内容:特別授業、ふれあい給食(、寄贈式) 対象:5年生 実施日 真土小学校 平成29年 2月20日(月)(寄贈式あり) 吉沢小学校 平成28年 9月 7日(木) 豊田小学校 平成28年11月17日(木) 岡崎小学校 平成28年12月 5日(月) 港小学校 平成28年12月 9日(金) 大野小学校 平成28年12月20日(火)	農業、漁業、畜産業の生産者の話を直接聞くことで、食への興味をもってもらい理解を深める。	継続	次年度以降も継続する。	
産業振興課		湘南ひらつかふれあいマーケット	生産者と市民によるふれあいの場の創出や地場産業の振興を図るため、地場産品の販売拠点として毎月1回開催する。	周知方法 神奈川新聞やタウン誌への開催案内の掲載や市ウェブ等で周知を行った。 開催回数 12回 来場者数 7,900人 内 容 出店者会が中心となり、朝市交流等のイベントを開催することで、来場者が楽しみながら買い物できる朝市を開催することができた。	生産者が市民と直接ふれあいながら平塚産の野菜や魚、湘南ひらつか名産品等を販売することで地場産品の周知や理解が進み、地産地消の推進が図られる。	継続		
農水産課	農水産業に関する理解を深める	ひらつか花アグリ米づくり体験隊	消費者自らが米づくりに参加することで、農業の理解を深め、本市の米の魅力を再発見する。地元の専業農家組織が講師になり、家族で田植え、草とり、収穫体験(稲刈り体験、乾燥・もみすり機の作業見学)後、自分たちで作ったお米を受け取る一連の体験事業を行う。	参加者 19家族69人 実施結果 6月18日 田植え体験 7月16日 草取り体験 10月22日 収穫体験(稲刈り体験) 10月23日 収穫体験(もみすり見学)	米づくりの過程を体験することで食と農のつながりについて理解を深める。	<継続>	市内市外共に多くの方に幅広く周知を行う。	

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
農水産課	農水産業に関する理解を深める	親子ふれあい体験(農業)	ひらつか花アグリ内で、農産物の栽培管理や収穫を体験する親子野菜づくり教室、採れたて野菜調理教室を開催する。	親子野菜づくり教室(春の部) 参加者:10組26名 実施結果 4月16日:種、苗植え付け体験 5月14日:管理作業、種まき体験 6月11日:管理作業、一部収穫体験 7月23日:収穫体験、採れたて野菜調理体験 親子野菜づくり教室(秋の部) 参加者:6組15名 実施結果 8月27日:種、苗植え付け体験 9月24日:草取り・管理作業体験 10月22日:草取り・管理作業体験 12月 3日:収穫調理体験	親子そろって野菜づくりの過程を体験し、収穫直後の野菜を食べることで旬で新鮮な農産物のおいしさや食の安全管理の大切さについて理解を深める。	<継続>	多くの野菜を知ってもらうため、品種を多く栽培する。また農業体験の前に行う講座において、農業に関心を持ってもらう内容を盛り込む。	
		ヒラメ稚魚放流、親子交流海体験	児童・生徒を対象に、遊漁船に乗船し、沖に張られた定置網や潮目の様子を観察する。また、ヒラメの稚魚放流体験や親子で体験できる子ども環境教室(海編)などを行う。	乗船体験&ヒラメの稚魚放流(小学生) 主催 平塚市漁業協同組合 実施日 7月11日 参加者 約140名	稚魚の放流や環境面から海を直接見ることで、水産業に親しみと理解を深めてもらう。	<継続>	次年度以降も継続する。	
	市民農園の利用区画数の増加	市民農園	自然志向を背景に、農業体験に対する市民の関心が高まり、余暇活動としてだけでなく、子どもの教育面からも自然や土とのふれあいを求め、市民農園を利用する人々が増えている。このようなことから市民農園利用を促進する。	市ホームページで空き区画情報の提供や公民館で市民農園の案内チラシを配架し、市民農園の利用率向上に努めた。	市民農園で農作業をすることで、農業の難しさや、収穫の喜びを家族で実感することにより、食べ物の大切さを認識できる。様々な農作物を栽培することで、食べ物に興味を持ち、食事の大切さを再確認できる。	<継続>	次年度以降も継続する。	市民農園区画数と利用希望者の状況を踏まえ、既存の市民農園の利用率向上に努めることで食育の推進につなげたい。
	水産業を体験する機会の充実	体験乗船	小学生を対象に、遊漁船に乗って相模湾を遊覧する。	乗船体験&ヒラメの稚魚放流(小学生) 主催 平塚市漁業協同組合 実施日 7月11日 参加者 約140名	地元漁業者が働く海を直接見ることで、水産業に親しみと理解を深めてもらう。	<継続>	地元漁業者が働く海を直接見ることで、水産業に親しみと理解を深めてもらう。	
	魚食の普及活動	魚食普及事業	湘南ひらつか魚まつり朝市、魚のさばき方教室などを通して、魚食の普及を図ります(湘南ひらつか魚食普及協議会主催)。	主 催 湘南ひらつか魚食普及協議会 周知方法 広報ひらつか、市HP及び関連施設でのポスター掲示 実施回数 魚まつり朝市(1回)参加者数 約2,800人 ふれあいマーケット(11回) 魚のさばき方教室(4回)参加者数 約60人	平塚漁港に水揚げされた水産物等の購入やさばく機会を増やし、地産地消や魚食の推進を図ることができる。	<継続>	次年度以降も継続する。	

食文化の継承、展開のための活動の支援

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
社会教育課	村井弦斎による食育の思想の継承	村井弦斎まつり	「ふるさと歴史再発見事業」の一環で、平塚に居住し、食文化の向上と小説の大衆化に寄与した村井弦斎の業績を市内外に発信・定着させるまつりとして、村井弦斎公園において年に1回、市民との協働により開催する。パネル展や食道楽クイズのほか、母飴つかみ取り、おこと・尺八演奏などを行う。	第17回村井弦斎まつり ・事業の周知方法 広報ひらつか9月第1金曜日号掲載、ポスター掲示、チラシ配布、記者発表 (同日に開催した「ひらつか市民活動センターまつり」「みんなの消費生活展」と協力して実施) ・開催日時及び来場者数 平成28年9月25日(日) 10:00～15:00 約1,300人 ・食道楽レシビ再現料理の試食 ・平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」の参加	村井弦斎まつりにおいて、弦斎料理教室における食道楽レシビの再現料理の試食により、食育の大切さを周知することができる。	<その他> 「村井弦斎まつり」は20回の節目も近いことから、現在実行委員会において、まつりの趣旨や今後の方向性について検討を行っている。食育の啓発を中心にしたという意見もあるが、当該だけでは対応が難しいこともあり、今後のあり方について関係団体と協議していくとともに、関係各課に協力を仰いでいきたい。		
健康課	食文化を継承する活動に対する支援	食育ボランティアの活動に対する支援	地域で食文化を継承する教室を始め、様々な活動を展開している食育ボランティアに対し、支援を行う。	定例会講話 :2回117人 献立監修、助言:2回4人	人とのふれあいを通じた食育が実施できる。	<継続> 活動が円滑に実施できるよう、情報提供の必要があるため。		
学校給食課	食文化の継承事業の充実	学校給食における食文化の継承	学校給食での行事食を通じて、食文化や食習慣を伝える取り組みを行う。	4月:入学・進級祝い(お祝いデザート) 5月:端午の節句(ちまき) 6月:歯の衛生週間 (凍り豆腐のみそ炒め、カミカミ昆布、大豆と豚肉の中華煮等) 7月:七夕 (いかの短冊揚げおろしソース、七夕汁、七夕デザート) 9月:十五夜(月見団子) 10月:秋の実り(さつまいもごはん、筑前煮(さといも等)) 10月:ハロウィン(ハロウィンデザート) 11月:秋の紅葉(ぶきよせごはん、さんまのかば焼き) 12月:冬至(かぼちゃほうとう、とりのゆず風味焼き) 12月:クリスマス(クリスマスデザート) 1月:正月 (松風焼き風ハンバーグ、なます風サラダ、白玉雑煮) 1月:鏡開き(おしるこ) 2月:節分(いわしの中華ソース、福豆) 3月:ひな祭り(五目ずし、ひなあられ) 3月:防災給食 (防災用食品アルファ米を使用したメニュー) 3月:卒業祝い(赤飯、お祝いデザート)	行事食を通して食文化の啓発ができる。	<継続> 生きた食教育の教材として、今後も児童への食文化の啓発のため実施する。		

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	平成29年度取組	平成29年度取組での改善・工夫	備考
中央公民館	食文化の継承事業の充実	公民館における食文化継承事業の実施	地域の協力を得て、家庭で作られる機会が少なくなった季節の料理(おせち料理など)や、伝統行事(だんご焼きなど)の食文化を継承する講座を実施する。	地域の食生活改善推進委員等の協力や、健康課・高齢福祉課との共催等により、おせち・節分等をテーマとした「季節の料理教室」を実施した。 10事業 参加者数 延123人(松原、花水、松が丘、神田、四之宮、大原、豊田、金目、金田) 手打ちそばを作り、日本の食文化に関心を持ってもらう取り組みをした。 2事業 参加者数 延21人(中原、吉沢) 家庭で作られる機会が少なくなった味噌を作り、食文化の継承を図った。 2事業 参加者31人(須賀、松原) 家庭で作られる機会が少なくなった和菓子を作り、食文化の継承を図った。 1事業 参加者数 26人(神田) 地区のだんご焼きに持っていくために「おだんご作り教室」を小学生とその保護者を対象に実施した。1事業 参加者97人(金田) 地域団体との共催により、「もちつき体験」や「竹の子まつり」を実施した。2事業 参加者480人 合計 18事業・参加者数 延778人	昔から受け継がれてきた料理や伝統行事の食文化を理解し、食の大切さを再認識することができる。 食を通して家族や地域のつながりを深めることができる。【継続>	<継続>	地域の協力を得て実施しているものが多い中で、講師や協力者が高齢化しており、後継者育成を考えなければならない。	

食の安全性、栄養・その他食に関する調査、情報提供

課名	取組みの名称	計画事業名	事業内容	平成28年度事業実績	事業の効果(食育推進の視点)	次期取組	次期取組での改善工夫	備考
市民情報・相談課	食の安全・安心に関する講座の開催	親子消費者教室	市民が自立した消費者を目指すための支援として、専門家を講師に招き小学生及びその保護者を対象にした実習形式の講座を開催する。講座では、食の安全性等をテーマにした幅広い消費生活に関する知識や情報をわかりやすく提供する。	平成28年度事業計画の段階まで実施予定だったが、講師の都合により実施せず。	夏休みの機会に親子で自然エネルギーを利用して調理できることを知り、その方法を実際に楽しくやってみて学ぶことにより、食材や調理について興味関心を持ち、その後の食生活に生かすことができる。	休止または廃止 次年度以降は「親子消費者教室」は継続するが、内容を食の安全性等で継続することが困難なため。		今年度は協力いただいていた市民活動団体の調整が難しく、食の安全性等以外のテーマで教室を開催した。
		暮らしの講座	市民が自立した消費者を目指すための支援として、専門家を講師に招いた講座を開催する。講座では、食の安全性等をテーマにした幅広い消費生活に関する知識や情報を提供する。	【暮らしの講座】 平成28年10月20日(木)10:00～12:00 神奈川県食の安全・安心推進会議と共催。 平成28年度かながわ食の安全・安心キャラバンの1講座として開催。参加者数 11人 内容:講義 県生活衛生課職員「神奈川県で行っている食品中の放射性物質検査について」 講義 東海大学工学部教授「放射性物質の基礎知識と食品に含まれる放射性物質の安全性について」の2部構成で実施。	市民の食を取り巻く現状の情報を講座を通して得た知識を基に、市民が自身で選択し、自立した食生活を送ることができるようになること。	継続	多くの消費者の興味関心に合ったテーマを選定し、消費者被害の未然防止につながるよう努める。	
学校給食課	学校給食での取組の推進	学校給食での食の安全	残留農薬検査、0 - 157細菌検査、一般細菌検査、放射性物質検査を実施する。	物資選定委員会を開催し、各食材が食品衛生法の基準にあったものであるか、産地、加工地、成分表、各検査証明書等で安全性の確保に努めた。 市物資選定委員会 2回開催 共同調理場物資選定委員会 11回開催 食材や提供食について、残留農薬検査、0 - 157細菌検査、一般細菌検査、放射性物質検査を実施した。 残留農薬検査 2回実施 0 - 157細菌検査 3回実施 一般細菌検査 4回実施 放射性物質検査 4回実施	各検査を実施することで、食の安全を実証できる。	<継続> 食の安全を実証するため、引き続き各検査を実施する。		

基本施策（２）学校・保育所等における食育の推進 食に関する指導の充実

平塚市立旭陵中学校 「優れた『早寝早起き朝ごはん』運動の推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞

背景 神奈川県教育委員会から「子ども Joy! Joy! プラン」健康・体力づくり実践研究校として指定され、子どもの健康・体力づくりの取組を推進する

期間 平成26年4月～平成29年3月

目的 生徒の健康・体力づくりの取組を通して、生涯にわたって自ら健康・体力の保持増進を図ることができる実践力の育成を目指すとともに、本実践研究校の成果等を広く普及・啓発する。

内容 保健体育科や家庭科の授業及び生徒による委員会活動を中心に、運動する機会を提供したり、食に関する知識や習慣の定着を図ったり、睡眠に関する実態調査アンケートの実施及び結果の考察を行った。また、学校の教育活動全体を通して、授業だけでなくPTAや地域と連携した行事を行うとともに、自校での講演会や県フォーラム、地区・市における公開授業や研究協議会において実践報告をするなど、具体的な取組を他校へ発信した。

研究組織



具体的な取組み（食育に関する内容のみ抜粋）

（１）各教科における教材・教具の検討、実践

ア 家庭科授業による食に関する指導の研究

ゲストティーチャーによる授業

家庭科では市の管理栄養士や栄養教諭による授業を年２回実施



～お弁当の献立を考えよう～

一昨年度神奈川新聞に掲載された、
家庭科の授業の様子



中学3年生 夏季課題

食育をテーマとした絵本作り
(幼児向けの食育絵本)



(2) PTA・地域とタイアップした健康・体力づくりに関する取組み

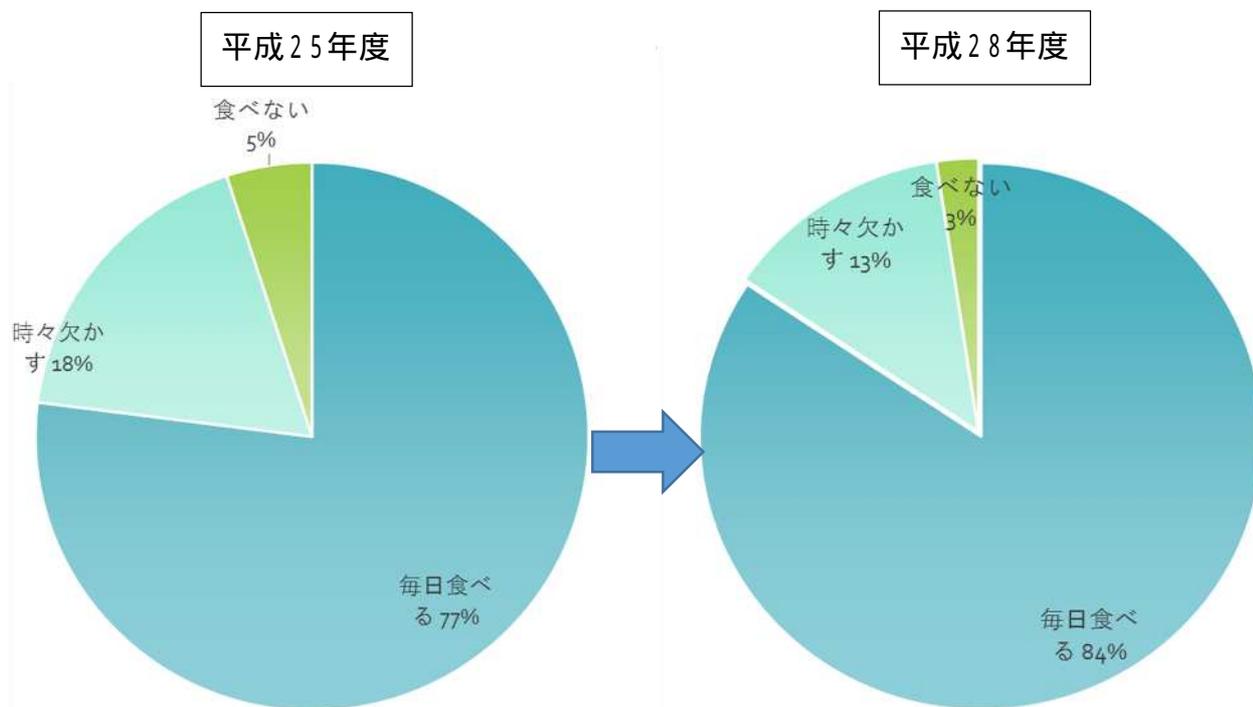
PTA 主催 保護者対象料理教室 ~栄養満点!家族へのおもてなし~



家庭での料理をバランスよく充実させたいとのことから、PTA 主催による料理教室を開催。

取組みの成果（食育に関する内容のみ抜粋）

○アンケート調査「朝食を毎日食べていますか。」結果



経年推移でみると、朝食を欠かさずに食べるものがこの3年で増加。

授業でゲストティーチャーを招いたり、身の回りの食材の選び方について知識を定着させたり、食育に関心を持たせる授業に工夫を凝らした。その結果、この3年間で摂食率が上昇した。

○弁当の献立づくりの授業の成果（中学2年生 夏季課題 あなたのためのお弁当作り）



全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ
あなたのためのお弁当コンクール部門
「中学生文化連盟会長賞」

生徒の感想

(1) 平成 28 年度 2 年夏季課題「あなたのためのお弁当作り」を振り返って

- ・野菜が少なかったので、次に作る時は野菜を多めに作りたい。
- ・今回の弁当作りは色合いが悪い弁当になってしまったので、次はポテトサラダなど色合いの良い弁当を作りたい。
- ・自分でメニューを考えるのはとても大変で、毎日の親の苦勞がわかった。大変すぎてもう作りたくないが、手伝いはしていこうと思う。
- ・お弁当を作っているお母さんは大変だと思った。これからも感謝して食べたいです。人に合ったお弁当を作って、喜んでくれたので良かった。
- ・人のため、その人に合ったメニューを考えることが楽しかったので、これからもどんどん作りたい。
- ・お弁当を作るのは大変で、時間がかかるんだなと思った。次回作る時には、もう少し短時間で工夫しながらできるように頑張りたい。
- ・作る相手のことを考えて料理するのは、自分が好きなものをつくるより難しいんだなと思った。
- ・栄養のバランスを小学校の時よりくわしく学べて、良い食べ合わせがわかった。素材の持っている効果をちゃんと調べてその人に合わせた材料を選ぶことが大事だとわかった。

(2) 平成 28 年度 3 年夏季課題「幼児向きの食育絵本」を振り返って

絵本の製作を通して、今後の生活に生かしたこと

- ・好きなものと嫌いなものを一緒に調理して野菜を食べられるようになりたい。
- ・野菜の中には嫌いなものがあるので、チャレンジしてみようと思った。
- ・ネットなどで野菜のすごさがわかり、やっぱり野菜を食べたほうが良いなと思った。
- ・栄養がある食べ物を食べて健康になりたい。
- ・幼児に悪いお手本にならないように食べ物を残さないようにする。
- ・魚をもっと食べる。
- ・嫌いな食べ物も食べてみようと思った。
- ・今回調べた旬を参考にして、一番おいしいものを買おうと思った。
- ・食べ物の大切さを理解した。
- ・たくさんの幼児に読んでもらいたい。
- ・改めて食材に対して理解できた。どの食材がどんな働きをするのか考えてやっていきたい。
- ・嫌いな野菜を刻んで、少しずつ食べられたらいいなと思った。
- ・レシピノートを作って、本棚にどんどんためていきたい。
- ・自分も栄養がとれるものを作って食べようと思った。

(3) 今回の各授業について(食育に関する内容を抜粋)

- ・家庭科では幼児のおやつを作りました。これから作ってみたいと思いました。
- ・スポーツについての話や食育について学ぶことができました。

教員の感想（食育に関する内容抜粋）

（１）各教科での取り組みについて

- ・健康づくりのために、生徒が自分の体を使ってどのような実験ができるかをいろいろ考え、試みました。このような機会があったおかげで、私自身よい勉強になりました。
- ・自分自身の教科で、新たな取組みに挑戦する良い機会となりました。
- ・あらゆる教科で「健康・体力づくり」の授業ができることが興味深かったです。年度を追うごとに先生方の工夫があり「さすが」でした。
- ・各教科、取組むことができよかったですと思います。年間の計画の中で、健康・体力づくりに関係する単元では、意識して指導できるとよい。
- ・全教科で取組むことで、生徒たちへの意識付けは強くなったと思います。
- ・英語科では各学年にスポーツ、食に関連する項目があるので、なんとかできたと思います。

（２）Joy!Joy!実行委員の取組みについて（Joy リンピック、朝トレーニング、廊下・階段の掲示物等）

- ・掲示物も工夫が凝らされていて、学校全体のJoy!Joy!雰囲気を作られていてよかったです。
- ・いろいろな場所でJoy!を意識できてよかったですと思います。

（３）委員会での取組みについて（図書室の関連本の陳列、昼の放送、昼の施設開放等）

- ・とても興味深かったです。様々な分野で、健康・体力アップの意識付けは可能なんだと実感しました。
- ・昼の放送は良かったと思います。話した内容がどこかにっ掲示されているとより良かったのでは。
- ・Joy!Joy!ウィークとして、学校全体として取組んだことで、相乗効果があったのではないかと思います。

（４）年間を通しての取組み（「運動、睡眠、食育についての取組み」）について

- ・生徒も常に健康・体力づくりを意識せざるを得ないほど、あらゆる機会にJoy!Joy!の取組みが行われていたと思います。
- ・保健委員会の年間を通じた実践、素晴らしいです。また、家庭科での食育について外部講師を招いての授業等、生徒にとっても日常と異なりよかったですのではないかと思います。

（５）その他

- ・中学生の今はわからなくても、生涯を通して「運動、睡眠、食育」を意識するようになると思います。

平成29年度平塚市食育推進計画 予定表

会議名	構成メンバー	平成29年										平成30年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平塚市食育推進会議	委員					推進会議開催 ・食育推進計画の事業に関する調書について ・平成29年度の予定について ・その他								
						進行会議開催 ・食育推進計画の事業に関する調書について ・平成29年度の予定について ・その他								
事務局	健康課	・平成28年度事業に関する調書取りまとめ												・平成29年度事業に関する調書の作成依頼